

第1部「世界の名曲」〈40分〉

I 柳元 幸子（ソプラノ）

◆ドニゼッティ：あの騎士の眼差しを（歌劇「ドン・パスクワレ」より）

お金持ちで独身老人のドン・パスクワレを中心に甥のエルネスト、その恋人ノリーナが結婚する物語を描いた喜劇。このアリアは美人で気が強く、したたかなノリーナが、恋愛について自信たっぷりに語る曲として広く知られている。

II 吉田 祐美（フルート）

◆フェルー：「3つの小品」より端陽（Taon-Yan）

1921年に書かれた「3つの小品」は当時フランスで流行していた東洋へのあこがれから作曲されました。3曲めの「端陽」は、中国で5月5日に行なわれる端午節の祭りの様子が、とても速い踊りを表す旋律や中国のたて笛で実際に演奏されるゆるやかな節回しなどで表現されています。

◆ビゼー：「アルルの女」第2組曲よりメヌエット

戯曲『アルルの女』の附随音楽として1872年に作曲された管弦楽曲の中から、演奏会向けに数曲を選び第1組曲が作られました。『メヌエット』はビゼーの死後に友人のギローが編曲した第2組曲の1曲で、フルートが奏でるその美しいメロディーは広く愛されています。

◆ゴセック：タンブーラン

タンブーランとは、フランスの古い民族楽器タンブーランに由来する昔の太鼓を模倣した楽曲です。生き生きした2拍子の音楽で、思わず体を動かしたくなることでしょう。

III 鴨川 太郎（バリトン）

◆イタリア民謡：《オ・ソーレ・ミーオ》（私の太陽）

瀧廉太郎が《荒城の月》や《花》を作曲したころ、この曲はイタリアのナポリで作曲されました。「嵐が去った後の爽やかな空気や日の光は何て素晴らしいのだろう！でも、僕にはもっと美しい別の太陽がある。それは君の顔（かんばせ）！」と歌います。

IV 沼田 雅行（ヴァイオリン）

◆クライスラー：愛の喜び

ウィーン生まれのクライスラーは小さなときからヴァイオリンに親しみ、素敵なヴァイオリンの作品を多く作曲しました。2つ以上の音を同時に鳴らす豊かな響きが、心の幸せを存分に表しています。メロディーがとても素敵でラフマニノフがピアノに編曲しました。

◆クライスラー：シンコペーション

演奏旅行で行ったアメリカで楽しいジャズを聞き、自分の音楽に取り入れて作曲した作品です。まねをするだけでなく、ウィーンの上品でちょっとおすましたメロディーを上手に取り入れたおしゃれな曲です。

◆クライスラー：中国の太鼓

世界各地に演奏旅行をしたクライスラーは、中国の元気な太鼓を聞きました。激しい踊りと宙がえり。その動きの速さと大きな技にびっくりしました。着地もうまく決まるかな。クライスラーは日本でも演奏会をしています。

V 沼田 宏行（ピアノ）

◆ラヴェル：道化師の朝の歌

サーカスの中でみんなを楽しませるピエロ。玉乗りや、お手玉がうまく決まるかな。ちょっとおっかなびっくりだけど、素敵に決めています。曲の真ん中では、ちょっと不思議な国のお話をします。魔法の国に閉じ込められたお姫様。無事に助けられるかな。

◆ショパン：ワルツ（遺作）

伝統的なメロディーと魅惑的な和音の変化でピアノの魅力を存分に引き出す曲です。雰囲気を変え、息つく間もなく最後まで踊り続けます。情熱的な動きと旋律が心を揺さぶります。

VI デュエット

◆ヴェルディ：《乾杯の歌》

オペラ《椿姫》にて、パリのヴィオレッタの館では、これから始まる恋のきっかけになる夜会が開かれます。楽しい時をともに分かちあいましょう。はかなくすばやく去っていくのが恋の喜びです。咲いては散る花、二度と楽しむことは出来ません。楽しみましよう。熱く快い言葉が私たちをさそいます。

◆モーツァルト：《パ・パ・パの2重唱》

オペラ《魔笛》の終わりの方で、鳥刺しのパバゲーノが、ついにパバゲーナという理想的なお嫁さんを見つけます。2人は大喜びで「結婚したら沢山のパバゲーノ（男の子）たちと沢山のパバゲーナ（女の子）たちを作りましよう！」と盛り上がります。

第2部「日本の歌」〈20分〉

I 鴨川 太郎（バリトン）

◆北原白秋作詞、山田耕筰作曲：《この道》

詩人が北海道を経て樺太へ旅した時に、男の子が見た札幌の思い出という形で詩にしました。初夏に白い花を咲かせる「ニセアカシア」、旧札幌農学校演舞場跡地に残る「白い時計台」、羊が放牧されている羊ヶ丘（「あの丘」）などが歌われています。

II 柳元 幸子（ソプラノ）

◆北原白秋作詞、山田耕筰作曲：《待ちぼうけ》

この歌詞は紀元前の中国・宋の時代の逸話からとられたものです。ある百姓の畑に切り株があり、偶然うさがぶつかりました。思わぬごちそうに味をしめた百姓は？前奏と後奏は山田耕筰が大連で聞いたチャルメラの音をヒントにしたといえます。

III みんなで！

◆文部省唱歌、弘田龍太郎作曲 《こいのぼり》

1. 鶯（いらか）の波と 雲の波
重なる波の 中空（なかぞら）を
橘（たちばな）かおる 朝風に
高く泳ぐや 鯉のぼり
2. 開ける広き 其の口に
舟をも吞（の）まん 様見えて
ゆたかに振（ふる）う 尾鰭（おひれ）には
物に動ぜぬ姿あり
3. 百瀬（ももせ）の滝を 登りなば
忽（たちま）ち竜に なりぬべき
わが身に似よや 男子（おのこご）と
空に躍るや 鯉のぼり

IV 柳元 幸子、鴨川 太郎

◆文部省唱歌：《村祭り》

1. 村の鎮守の神様の
今日はめでたいお祭り日
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
2. 年も豊年満作で
村は総出の大祭
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ
夜までにぎわう宮の森

◆文部省唱歌、作詞者作曲者不詳 《茶摘み》

1. 夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
あれに見えるは茶摘みぢやないか
あかねだすきに菅（すげ）の笠
2. 日和（ひより）つづきの今日このごろを
心のどかに摘みつつ歌ふ
摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ
摘まにゃ日本（にほん）の茶にならぬ



第3部 リズムで遊ぼう！〈20分〉

I ボディーパーカッションに挑戦

みんなで真似してみよう！
こんなこと、出来るかな！

II ケチャ風お茶漬け

- ①おなが が グググー おなが が グググー
- ②おちゃおちゃ おちゃづけ おちゃおちゃ おちゃづけ
- ③シュシュシュシュ ふりかけ シュシュシュシュ ふりかけ
- ④つけもの コリコリ(ウン) つけもの コリコリ(ウン)
- ⑤バラバラバラバラ (ウン)のり バラバラバラバラ (ウン)のり
最後 おちゃづけおちゃづけだいすきよ！ おちゃづけやっぱおいしいな、ハイ！

III みんなで《村祭り》！

村祭りの歌詞で歌おう！
楽器を使ってさらに元気に！

素敵な一日をありがとう！

楽しい音楽でみんなが元気

になりますように！